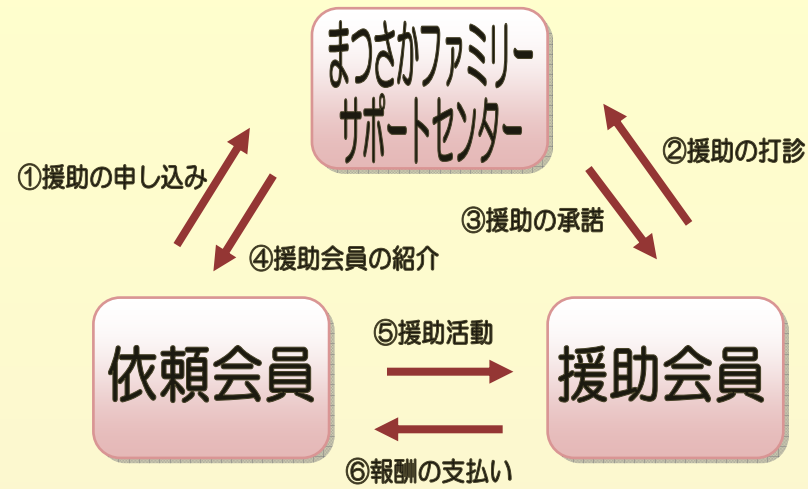


～ファミリーサポートセンターのしくみ～



★1時間の利用料金★

★援助開始3時間前までに依頼があった場合★	
平日 7:00～19:00	700円
平日の上記以外の時間・土日祝日	800円
年末年始(12月29日から1月3日)	1,000円
★援助開始まで3時間を切った場合・軽い病児・病後児★	
平日 7:00～19:00	1,000円
平日の上記以外の時間・土日祝日	1,200円
年末年始(12月29日から1月3日)	1,400円

『あなたの子育て応援します』

2013年2月(第19号)

ファミサポ ホットタイム

発行元：まつさかファミリーサポートセンター

アドバイザーより

今回の養成講座は多くの方に受講していただきました。
日頃子どもに関わる仕事をされている方。子育ての一段落した方など様々ですが、子どもが好き、人と関わるのが好きとの思いで熱心に勉強していただきました。
サポートセンターへの依頼入会は増え続けています。核家族化が進み、実家から遠く離れて子育てをすることへの不安を抱えて入会する方も多くみえます。
今回受講していただいた方々の顔を思い出しながら、大変心強く感じるとともにアドバイザーとして日々勉強していかないと！と思いました。

2012年度第2回援助会員養成講座の様子



まつさかファミリーサポートセンター

〒515-0043 松阪市下村町 1115 (特) 松阪子どもNPOセンター内
TEL/FAX 0598-60-1820
E-mail mfsc@mknpo.jp
ホームページ <http://www.mknpo.jp/mfsc/>
開所時間 月曜～金曜 8:30～19:00







まつさかファミリーサポートセンターは(特)松阪子どもNPOセンターが松阪市より委託を受けて運営しています





子育てを応援してみようと思われる22名の方が受講され、15名が援助会員として登録されました。4日間24時間の講座内容をご紹介します。

 <p>【保育サポーターの 役割と心得】 塩谷 明美 (特)松阪子どもNPOセンター理事長</p> <p>近年、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。地域の人間関係が希薄化し、豊かな自然・遊び場が減少していく中で、子どもは様々なストレスを抱え、親は育児に対して不安を持ち負担感が増えています。子どもの気持ちを受け止めること、そして、母親の気持ちを受け止め、自立をサポートすることが保育サポーターには求められています。</p>	 <p>【子どもの心に寄り添う】 河合 卓子さん (特)みえ親子・人間関係研究会理事長</p> <p>子どものだすサインに気付くことがとても大切です。子どもの表情・態度をよく観察しましょう。そして、子どもの話を傾聴して、決して否定せず、しっかり受け止めてあげましょう。そのまま繰り返してあげること、言葉と言葉、心と心のキャッチボールを続けることで子どもは「わかってもらえた」と、安心するのです。</p>	 <p>【保育の心 こどもの遊び】 松井 みやさん 元保育園園長</p> <p>子どもは、自分の話を聞いてくれ、受け入れて共感してくれる人を求めています。子どもと接する時、まずはサポーター自身が元気で笑顔であることが大切です。子どもと夢中になって遊び、肌と肌、心と心のふれあいをしていく中で子どもの良い所をたくさん見つけ、伸ばし、そしてお母さんに伝えていってあげましょう。</p>	 <p>【子どもの栄養と食生活】 馬場 啓子さん 三重中京大学 KCDC 特別研究員</p> <p>朝食欠食や偏食、6つの「こ」食（孤・個・固・小・粉・濃）など、気になる子どもたちの食生活が見られます。「食」という字は人に良いと書きますが、成長期の子どもたちにとっての食事は、からだの発育に欠かせないものであるとともに、美味しく、楽しく食べることにより心も育みます。大人の責任として良い食環境づくりを心掛けたいものです。</p>	 <p>【小児看護】 岡田 まりさん (株)ジェネラス訪問看護ステーション ほたるいせ 管理者</p> <p>子どもの変化を捉えるには、「あれ？いつもと何か違うな…」ここから「見る」こと（観察）が始まります。普段の子どもの様子を把握しておくとともに、この「何か違うな…」と感ずることがとても大切なのです。その何か違うなと思う気持ちの根底にあるものは、子どもへの無償の愛情です。</p>
 <p>【子どもの心の発達】 千草 篤彦さん 高田短期大学人間福祉学科教授</p> <p>産まれてすぐの乳児が、笑う様な仕草で周りの大人を引き寄せる、生まれながらに持っている能力もありますが、人間は、心も体も年齢により変化しながら、その子の速度で発達をしていきます。障害などにより、発達の速度は、異なりますが、障害に合った周りの接し方などで変わります。大人の関わり方が、子どもの発達にとって、重要であることを考えて接していきたいものです。</p>	 <p>【子どもの発達と病気】 岩佐 敏秋さん イワサ小児科院長</p> <p>年齢によって子どもがかかる病気はさまざまあり、また表れる症状も個人差があります。熱があるからと慌てるのではなく、普段と違う、元気のなさなどの症状を把握し、診察時に伝えていくことが大切です。また、病気の症状により、すぐ病院へ、あるいはしばらく様子を見るなどを落ち着いて判断出来るようにしたいものです。</p>	 <p>【乳児の暮らしとケア】 大西 郁代さん 嬉野保健センター保健師</p> <p>赤ちゃんには、成長、月齢にあった接し方が必要です。愛情を持った目でしっかり観察し赤ちゃんに今何が必要かを見極めて接することにより、身体の成長だけでなく、心も育っていきます。日々の育児の中で声掛けや、スキンシップを十分に行うことはとても大切なことです。また、母親の育児ストレスをためないようにすることにも気を付けなければいけません。</p>	 <p>【子どもの事故と安全 幼児救急法】 富内 直美さん 日本赤十字社三重県支部看護師</p> <p>毎日の生活の中には、子どもにとって大変な事態を招くことがたくさんあります。けがや誤飲は注意していても防ぎきれません。そんな時、対処法を知っていることにより迅速に処置ができたり、場合によっては命を救うこともできます。身近なハンカチやストッキングも応急処置に使えます。また、自分の行動範囲の中でAEDがどこに設置されているかを知っておくことも大切です。</p>	<p>【グループワーク】</p> <p>アドバイザーをまじえて3つのグループに分かれて、講座をふりかえりお互いに感じたことや気づいたことなどを出し合い、これから援助活動を行う上での心構えや、地域の中で子育て中の家族を見守り、支えていく役目の大切さについて話し合いました。</p> 

参加者の声

自分が子育てしていた頃とは変わっていることも多くあり、大変勉強になりました。

傾聴の話を聞き、子どもの話を否定せず聴き、気持ちを受け止めたいと思いました。

仕事をしながら子育てをしてきた経験から、退職して余裕が出来たので、子育て中の方の役に立ちたいと思います。

ニュースで見る虐待で傷つく子どもたちを少しでも何とかしたい、虐待を未然に防ぎたいと思い講座を受講しました。



援助活動やっています

～日頃の援助活動についての感想をいただきました～

依頼会員より

週一回だけの母の勤務の日に、幼稚園から託児所まで送っていただいています。利用開始前に援助会員さんと顔合わせをしていただいたこともあってか、娘も初回から援助会員さんと打ち解けられていたようです。今までは勤務の日だけいつも行っている園をお休みさせていたのですが、援助のおかげでお休みせず済むようになり、とても有難く思っています。

援助会員より

幼稚園からアリスまでの送迎の援助活動で出会ったなっちゃん。いつも元気いっぱい笑顔が絶えないなっちゃん。お迎えにいくといろいろお話をしてくれます。とても楽しい時間をありがとう！これからもお母さんの『今お願い！』の声に少しでも応えられるよう、援助活動を続けていきたいです。

